

## 1 計画策定の趣旨

急速に高齢化が進む地域の活性化を図るためには、地域の高齢者自らが豊富な知識や経験を活かして、地域活動の担い手として参加していただくことが重要です。

楽しくなかまづくりを進めながら、健康づくり活動や、地域への貢献活動、仕事おこしなどに取り組むことにより、生きがいを高めながら、地域に新たな活力を吹き込んでいただけるよう、「高齢者地域活性化推進計画」を策定します。

## 2 地域の現状と課題

### 現 状

京都府においては、人口の17.4%が65歳以上の高齢者で、その数は46万人（平成12年国勢調査）に達しています。全体として高齢化が進むとともに、市町村によっては10人のうち3人以上が高齢者のところがあるなど、超高齢社会が現実の問題になっている地域もあります。

また、一人暮らしの高齢者も増加しています。

65歳以上の高齢者の比率		
	平成7年	平成12年
京都府全域	14.7%	17.4%
市町村	最高	31.5%
	最低	9.5%

こうした中、今、地域では、家庭や地域の相互扶助機能の弱体化に加え、地域社会・産業の担い手の減少など、高齢化の進展に伴う地域社会への様々な影響が懸念されています。

一人暮らし高齢者の数	
平成7年	平成12年
56千人	76千人

（京都府全域）

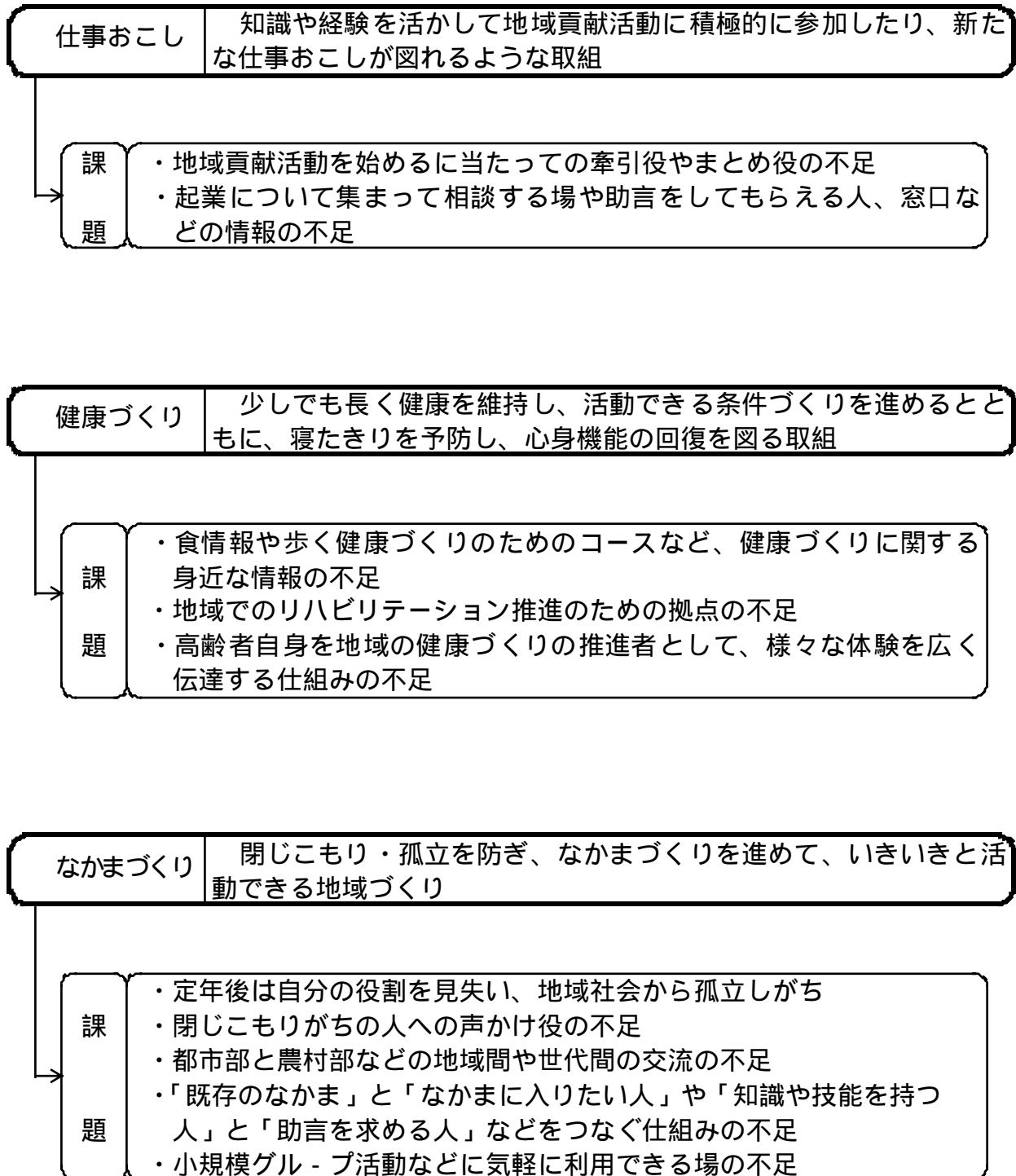
### 課 題

一方で、元気で活動的な高齢者も増加していくものと思われ、一人でも多くの高齢者が健康を保ち、あるいは回復され、自ら地域の支えとなって活躍していただくことが、個人にとっても地域にとっても大変重要です。

これまでの高齢者への介護や生活支援対策を充実することと併せ、今こそ、高齢者が地域社会の重要な一員として、地域づくりに積極的に関わり、健康を保ちながら、様々な活動にいきいきと参加できるような取組を一層推進する必要があります。

### 3 施策の基本方向

高齢者の地域での積極的活動を促すため、以下3つの視点を基本に施策を推進しますが、推進に当たって、それぞれ次のような課題に対応していく必要があります。



「仕事おこし」・「健康づくり」・「なかまづくり」に共通する課題

3つの視点ごとの課題をまとめると、『人』、『場』、『情報』、『交流』  
が、共通する課題となっています。

『人』⇒ 地域を支える基本は「人」です。様々な活動の「中心となる人」や「支える人」、人と人、人と情報を「つなぐ人」などの養成・確保が必要です。

『場』⇒ 交流や活動、情報の収集・発信を行う上で、それらを実施する「場」や「拠点」が必要となります。既存の施設や空き店舗などの活用を促進し、「身近」で「いつでも気軽に立ち寄れる」場や拠点が重要です。

『情報』⇒ 活動を推進する上では、様々な課題に遭遇します。そのような時に必要な情報を収集したり、相談できる場所が必要です。  
また、人材情報や活動に関する様々な情報を、地域間で共有できる仕組みも必要です。

『交流』⇒ 人々が交流する場には活気が生まれます。高齢者とその他の世代、都市と農山漁村といった、世代や地域を超えた交流により、お互いに「刺激しあい」、「活動意欲を高め」、「地域の良さを再発見」できる仕組みが必要です。

## 4 重点施策

### ～ 地域の活動の基礎（仕掛け）づくり ～

#### (1) 基本的考え方

前述の共通する課題への対応策を重点施策として進めます。

##### 「人材」の養成・確保の推進

地域の高齢者には、これまで京都府が地域活動のリーダー役として養成に関わってきた方々を初め、地域の様々な組織・団体での活動やNPOやボランティア活動に取り組んでおられる方々など、いろいろな知識・経験・技能をお持ちの方や活動意欲と行動力をお持ちの方などがおられます。

そうした方々に、地域で一層の力を発揮していただくことはもとより、コミュニティ事業（注）等の新たな視点も踏まえ、地域活動の特性に応じた多彩な人材の育成に努めていく必要があります。

##### 「場・拠点」づくりの推進

地域には、京都府や市町村などが設置している公共施設のほか、空き校舎や空き店舗・空き家など、工夫をすれば利用可能な施設がたくさんあると思われます。

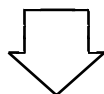
新たな施設づくりを考える前に、そうした既存施設の状況をしっかり把握し、活用を図る必要があります。

その場合、実際に地域活動を担い、利用される高齢者の目線で、施設の活用方策などを考え、提案していただくことが有効であると考えます。

地域に眠っている資源が、地域の特色を活かした身近な活動拠点に生まれ変わり、活発な人や情報の交流を通じて、仕事おこし、健康づくり、なかまづくりなどの自主的な活動が次々と立ち上がってくることを期待されます。

##### 「情報」と「交流」の推進

地域活動の情報は、内容によっては、それぞれの地域のみ限定せず、IT活用などによる積極的な情報発信、多彩な交流活動などを通じて地域間で情報交換を行うことにより、他の地域にも様々な刺激やヒントを与え、高齢者の新たな活動を誘発する効果も期待できます。



**高齢者の高齢者自身による地域活動推進のための基盤づくりを進めます！**

（注）コミュニティ事業

高齢者等が地域社会で行う社会貢献活動から企業活動までを含めた幅広い活動を「コミュニティ事業」としている。

## (2) 重点施策の内容

### 全体イメージ

～ 高齢者パワーで地域を元気に ～

高齢者が自主的グループ活動を通じて、楽しくいきいきと、地域の隠れた人材や活用可能な遊休施設、ユニークな活動・交流事例などの情報を収集・整理し、地域活動上の課題の検討や企画・提案活動を積極的に展開する取組を推進します。

#### <ポイント>

地域・高齢者が自らの力で地域をパワーアップ！  
既存施策・施設を活かす！

### 高齢者の自主的グループ活動により地域活動の基盤づくりを推進

#### 活動資源の調査や交流・提案活動の支援

##### ・調査活動などを推進します。

地域の高齢者が集まって、地域の活動資源（人、拠点、活動事例の情報など）の調査をしたり、活用する際の課題や方策などを、わいわい楽しく検討する活動の支援に努めます。

##### ・地域の特色を活かした交流活動などを推進します。

市町村や地域の団体が主催する催しものなどにおいて、地域活動の住民への啓発、意見交流会の実施、地域の実情に応じた事業提案など、地域の特色を活かした取組を行う高齢者のグループ活動支援に努めます。

#### 活動情報の集約と発信

##### ・地域でのグループ活動情報を集約・発信する中央拠点を設け、IT活用はもとより、あらゆる広報媒体を駆使して、府内一円に情報が発信できるよう努めます。

また、寄せられた地域資源活用上の課題や様々な地域からの提案などについて、京都府や関係機関・団体が一緒になって考え、検討します。

### 活動交流全体会の開催

- ・ 地域でのグループ活動を府全体として集大成し、グループ間の交流を行ったり、活動内容を広く府民に知っていただく情報発信を行う場を設けます。

### 地域活動のリーダー等多様な人材の育成

- ・ 地域活動の担い手となるリーダー等を、目的別の講座を設けて養成し、グループ活動により得られた成果を地域で活かし、実践していただく取組を進めます。

## (3) 重点施策の効果

### ～ 別紙「重点施策の効果」参照 ～

施策の効果としては、地域の高齢者が、他の高齢者の実際のグループ活動を通じて得られた活動関係情報を活かし、グループ活動参加者や目的別講座修了者などの助言・協力も得て、地域での活動拠点の確保やなかまづくりを進めながら、自主的に様々な活動（健康づくり活動、NPOやボランティア活動を通じた社会貢献、仕事おこしなど）の立ち上げに挑戦し、実現していただけるような条件づくり、仕掛けづくりを進めることをめざしています。

また、既に活動をしておられるグループも、他地域も含めたユニークな活動事例等に触れる（情報提供や交流活動）ことにより、新たな活動のヒントや刺激を得て、さらなる活動意欲を高め、のばしていけるような仕組みづくりもめざしています。